



TITLE:

# 分子理論における諸方法

AUTHOR(S):

---

CITATION:

分子理論における諸方法. 物性研究 1969, 12(1): A1-A1

ISSUE DATE:

1969-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87138>

RIGHT:

## 「分子理論における諸方法」

上記の短期研究会が昨年12月4, 5の両日基研で行なわれた。分子の理論も完全な形からは程遠く、種々の欠陥を含んでいる現状で、これらの欠陥を少しでも除去する道はないか、最近一部の人達によって用いられている諸方法について検討するためであった。

12月4日

- |  |     |         |
|--|-----|---------|
| 1. Perturbation-Variation Method                           | 京大  | 雑賀 亜 幌  |
| 2. Hypervirial Theorem と Perturbation-Variation Method の関連 | 金沢大 | 青 野 茂 行 |
| 3. Karplus-Kolker 法  | 理研  | 岩 田 末 広 |
| 4. 核スピン結合への応用  | 東北大 | 広 池 英 子 |

12月5日

- |  |     |         |
|--|-----|---------|
| 1. 朝永の方法                                     | 東大  | 水 野 幸 夫 |
| 2. Green 関数の方法                               | 岡山大 | 富 島 康 雄 |
| 3. 原子分子における電子相関の特徴づけ<br>— Bruckner 近似と RPA — | 東北大 | 松 下 利 樹 |
| 4. 分子論における多体問題                               | 京大  | 福 留 秀 雄 |

上記のようなプログラムで、第1日目は Perturbation-Variation 法を主とし、第2日目は多体問題的方法を取りあげた。50名前後の参加者があり、熱心な討議が重ねられたが、水野氏は東大紛争のため、残念ながら出席されなかった。

以下は、各講演者を書いて頂いた講演要旨である。(ただし、福留・岩田両氏は多忙のため執筆されなかった。) この研究会を契機として、この方面の研究が発展することを期待したい。

世話人： 青野茂行, 雑賀亜幌

(雑賀 記)